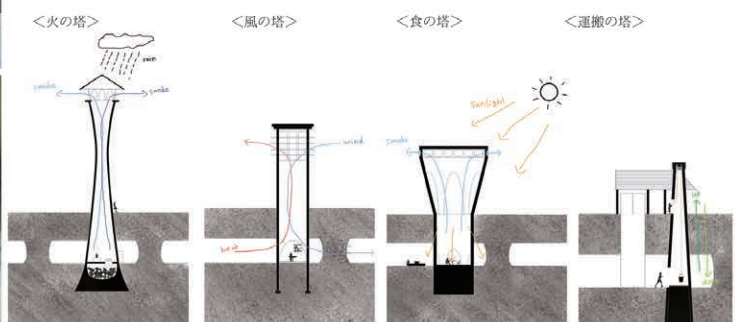
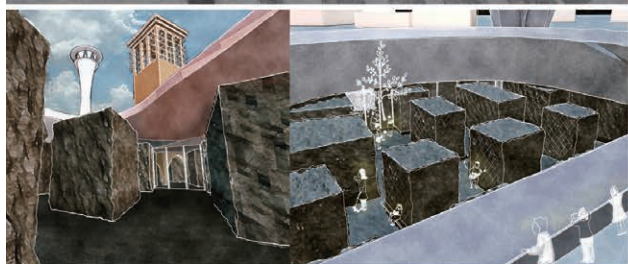
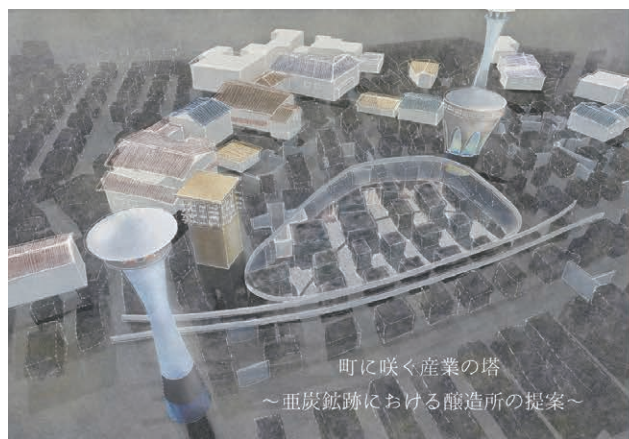


名城大学建築同窓会会報

●発行/2018年4月1日 ●編集/名城大学建築同窓会会報委員会

No.146



最優秀賞(近代建築掲載作品) 町に咲く産業の塔:亜炭鉱跡における醸造所の提案 山本 帆南

INDEX

会長・学科長あいさつ……………1・2
情報交流会……………3
支部だより……………3・4
同窓会ホームページ……………5
建築学科教職員……………5

建築同窓会賞……………5
就職情報……………6
平成28年度事業報告……………7
平成28年度決算報告……………7
平成28年度会計報告……………7

平成29年度事業計画……………8
平成29年度予算……………8
会則……………9
表紙・裏表紙解説……………10
平成29年度役員……………10



建築同窓会会長

岡野 廣海

(昭和50年卒)

建築同窓会会員の皆さまにおかれましては、益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日ごろから建築同窓会活動にご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、我が母校名城大学では昨年から今年にかけ喜ばしい出来事がいくつかありました。ひとつは7月の朝日新聞掲載のリクルート進学総研調査で、母校が高校生の「志望したい大学」のNO1に輝いたこと、二つ目は昨年10月に行われた全日本大学女子駅伝対校選手権大会で12年ぶり2回目の優勝を果たしたこと、そして、今年2月にイギリスの高等教育専門誌が発表した「THEアジア太平洋大学ランキング2018」トップ350+で、東海圏の私立総合大学からは唯一ランクインしたことであります。これからも益々母校が全国そして世界に発信し続ける大学として輝いていくことを卒業生の一人として願っております。

次に、平成29年度の建築同窓会の活動についてご報告させていただきますと、①会報(年1回)・ホームページ(随時更新)による情報発信、②情報交流会の開催(昨年12月2日にKKRホテル名古屋)、③建築学科への支援(昨年は学生企画による「建築卒業生から聞く就活のヒント」、建築学科の卒業設計作品中間講評会へ支援)、その他卒業式典への援助と各研究室の優秀学生に建築同窓会賞の表彰を行っています。

しかしながら、課題も抱えております。一つは、財政が依然として厳しい状況に置かれているということです。一昨年からホームページを刷新し充実させる一方、会報を会費納入者や希望者に限定して発送するなどにより支出の抑制を図ってまいりましたが、会費の収入が伸びない状況が続いております。新たな企画や学科支援の充実、周年事業への積立、そして開学100周年に向けての取り組みを考えたとき、収入増を図っていく必要があります。卒業生会員及び学生会員の皆様には、建築同窓会の実情をお察しいただき、是非とも熱いご支援をいただければと存じます。二つ目は、情報交流会への卒業生会員の参加者の低迷が続いているということです。この情報交流会は、卒業生、恩師、学生そして学科教員の方々が一同に会し、語り合える唯一の貴重な場です。様々な業種、立場の人と交流することで、新たなネットワークを持つことができ、特に若い卒業生にとって、自分の世界が広がり将来の財産につながると思いますので、積極的なご参加を役員一同お待ちしております。

最後になりますが、会員皆さま方の益々のご発展とご健勝を祈念いたしまして私からの挨拶とさせていただきます。

平成30年3月吉日



建築学科長

岡田 恭明

名城大学建築同窓会の皆様におかれましては、平素より建築学科のためにご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

学科の近況としては、本年3月に村田 賢教授が退職されます。村田先生は昭和52年4月に本学科に着任されて以来41年間の長きにわたり、教育と研究はもとより大学運営などにも精励され、本学科の発展に多大なるご尽力をされました。私も含め多くの同窓会の皆様も、村田先生には学生の頃には大変お世話になったと思います。この度、退職を迎えるにあたり永年のご功勞に衷心より感謝の意を表します。その一方で、4月からは佐藤布武（のぶたけ）助教が着任されます。佐藤先生の専門は建築計画・設計で、2年前に博士（デザイン学）を取得された新進気鋭の若手教員であり、今後の活躍が大いに期待されます。本学科は、これまで以上に充実した教育を学生に提供すると共に、社会に貢献できるような研究に邁進していく所存です。

学生の状況ですが、就職については建設会社やハウスメーカーなどを中心に求人が堅調ですが、学生が志望する業種と求人企業との不一致が懸念されるのが現状です。入試に関しては、中高生の理工離れといわれて久しいですが、本学科に対しては今年度も多くの受験があるようです。本学科を取り巻く環境は、ひとまず比較的明るいといえますが、今後の社会情勢の変化や少子化に伴う受験生の減少なども考えますと、手をこまねいてみていて良い状況とも限りません。

本学部では、数年前にアドミッション（入学受入れ）、カリキュラム（教育課程編成）、ディプロマ（学位授与）の3つのポリシーを見直しました。これらのポリシーを反映し、且つ学生の能力的質や社会の新しい要請などにも対応できるように、平成31年度からのカリキュラム改編に向けて準備を進めています。また、本学のMS-26（Meijo Strategy-2026）推進事業の枠組みを活用した地域企業との連携プロジェクトなどの学生参加型の新しい取組みにも継続的にチャレンジしています。

大学院については、昨年度から新しいカリキュラムがスタートしています。その内容は専門分野に偏り過ぎることなく、広範な知識を修得できるように配慮したもので、オムニバス形式の講義科目や学外での活動を単位認定する科目、複数教員によるスタジオ型の設計科目など、先進的・意欲的な科目を設置しています。建築分野の特徴として大学院に進学する学生数は他分野に比べて必ずしも多いとはいえませんが、これらの取組みにより大学院進学を魅力的に感じてもらえることを願っています。

最後になりましたが、同窓会の皆様方におかれましては、益々のご活躍を祈念しますと共に、今後の建築学科の一層の発展にご支援を賜りますようお願い申し上げます。



平成29年度情報交流会

平成29年12月2日(土)に第23回名城大学建築同窓会情報交流会がKKRホテル名古屋で開催されました。この会は、大勢の卒業生、学生そして大学関係者・教員や退職された教員の方々が一同に会し、交流を深める場として毎年この時期に開催しております。

さて、今回の交流会は、16時から2017年文部科学大臣表彰 若手科学者賞を受賞された名城大学建築学准教授の松田和浩先生から、「木質制振住宅の技術開発と設計法の提案」というテーマで、受賞に至る経緯や小規模住宅に安価かつ高性能な制振壁を効率的に導入するための世界初の設計マニュアルなどについてお話しがありました。世の中には効かない木造制振も存在しており、小規模住宅の制振設計マニュアルが早く完成し、広く普及していくことを願っています。

続いて、3階の懇親会場に移動し、17時10分から、平成26年法学部卒業で現在プロとして全国各地で演奏を行っている杉山氏による津軽三味線の演奏がありました。短い時間ではありましたが迫力ある演奏を聴き入っていました。

引き続きの懇親会では、建築学科長の寺西様、校友会副会長の浅井様からご祝辞をいただき、理工同窓会長の庵原様の乾杯をもって始まりました。今回は、昭和30年卒業の名城大学名誉教授の西様から今年3月に卒業された大江様までの幅広い年代の卒業生や現役学生、そして、建築学科の教員、退職恩師、体育OB連合会や理工学部その他学科同窓会役員の方々約100名が参加されました。また、中国支部からも村重様も駆けつけていただき、皆さん活気あふれる雰囲気の中で大いに語り合い、一層絆を深めることができました。終わりに、尾原体育OB連合会会長の音頭により全員で名城節を歌って閉会となりました。1時間30分という短い時間ではありましたが、ご満足していただけたのではと思います。

次回も有意義な情報交流会となるよう役員で企画を練ってまいりたいと思います。今後とも建築同窓会へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

事業経済交流員会



▲講演会



▲学科長祝辞



▲懇親会



支部だより

『東三河支部』だより

東三河支部 支部長 山本 利州（昭和37年卒）

東三河支部を設立して今年の4月で19年が経ちます。また、東三河支部の前身である「東三河鮫会」設立(昭和44年3月)から数えると今年の3月で満49歳です。来年は、いよいよ東三河鮫会設立から50周年で東三河支部設立20周年の年になります。

とは言っても記念事業以外に特段、活動をしてきた訳ではありませんが、来年80歳を迎えるわが身を思うと、そろそろ新たな世代へ東三河支部を繋げていかなければならないと思っています。

そこで、50周年迎えるに当たり、諸先輩方への感謝と後輩の皆様との新たな交流、そして世代交代へ向けて、今年は準備の年にしなければならないと考えています。

まずは、改めて東三河地域の各分野で活躍されている建築同窓生の皆様方の現状を把握していくと同時に、同窓生相互のネットワークづくりに向けて活動を再開していきたいと思っています。

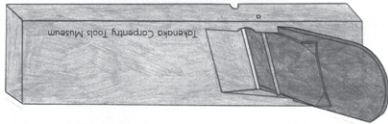
東三河地域で活躍されている建築同窓生の皆様に於かれましては、今後ご案内やご連絡等をさせていただきますので、ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。



■『関西支部』だより

関西支部 支部長 大西 堅之（昭和41年卒）

関西支部総会は毎年五月の第四日曜日に開催しており、例年通り平成29年5月28日に山陽新幹線新神戸駅集合、10時半より竹中大工道具館で見学ノコギリ、黒坪、カンナ、ノミ等又茶室一滴庵も有り名工の輝き、和の伝統美を見て廻り後ホテル北野プラザ六甲荘で総会。寺西浩司学科長 岡野廣海同窓会会長も出席して致き名城大学の近況お話を皆耳をかたむけた。事業報告、会計報告、等議案が承認され懇親会では参加された方々にご挨拶や近況報告を致き終始和やかな雰囲気の中終了する事が出来ました。



■四半世紀の回顧と現況

中国支部 支部長 中村 正信（昭和41年卒）

平成5年4月発足した名城大学建築同窓会中国支部は25年の節目を迎えることが出来ました。広島・山口県先輩OBが音頭を取り“名城大学建築”ここに有りの意気込みで中国5県の仲間40余名が広島市に結集し、初めての総会は華々しく大いに盛り上がった。

大きな目的は“名城大学建築”の認知度の向上と知名度を示すことにあった。会員相互が親睦をはかり切磋琢磨して在籍の部署で活躍し実績を残し、存在感を示すことからスタートした。

発足から10年間、広島・山口県で引き受けていた支部長を各県持ち回りとし、岡山～鳥取～島根～広島～山口の順に1期2年毎引き受け、各県の特徴を出した企画が取り入れられた。併せて特色ある建築物の“ウォッチング”を実施する等して名城建築の存在感を示すことでマンネリに陥る事なく機能したと思っている。

ここ、6～7年は新規入会者のないこと、会員の高齢化・疾病等で総会への出席者は下降傾向にあります。その現象は止まっていない現状を踏まえて総会は広島市で開催している。

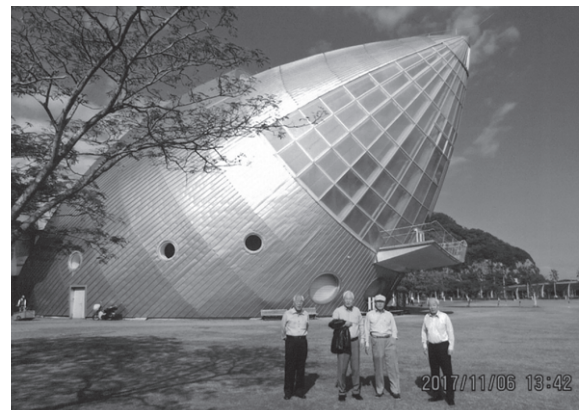
森畑氏～松本氏～宮原氏～釜田氏～中村と続いた支部長、それを支え続けた事務局は村重氏が発足以来25年間守続けている。維持・存続の方策として、同窓で建築関連業のOBに声掛けして、賛助会員として入会して頂いている。総会時には、校友会（広島・山口）に協力をお願いしてご出席を頂いているのが現状です。このことを踏まえて、3の重点方針のもとに支部運営に取り組んでいます。

- 1) 年度総会と2度の役員会の実施
- 2) 事業として“ウォッチング”研修の実施
- 3) 未入会OBの情報収集と勧誘

地方のOBは減少し、中国支部の存続も危ぶまれる現況を現実として受け止め喫緊の課題として歴史ある支部を継承・継続したいと考えています。

—昨年11月の“ウォッチング”研修として天白キャンパスとドーム前キャンパスを石川会長、丸澤副会長他の先導で実施した。天白キャンパスでは三浦、大塚両先生のご案内で研究実験棟の説明を受けた。ドーム前キャンパスでは岩崎前会長も同行して頂き視察を終えました。翌日は熱田神宮に参拝し母校と建築同窓会の繁栄・発展を御祈念いたしました。また思い出の“食”味噌煮込みうどん、味噌カツ、手羽先等々も十分に堪能しました。

昨年の11月は鹿児島の枕崎市に行き、高崎正治氏（昭和51建卒）の作品「菜の花館」の視察をメインにおき、西郷隆盛の足跡を訪ね、夜は薩摩料理と温泉を満喫したウォッチング“研修であった。



名城大学建築同窓会ホームページのご案内

名城大学建築同窓会ではホームページを随時更新しております。

新鮮な建築同窓会活動の状況やキャンパス内の様子などの情報を配信しております。

情報発信のツールとして同窓会、建築学科、学生の皆さまにさまざまな情報の橋渡しができるよう充実させて行きたいと思いますので多くの皆様にアクセスしていただきますようお願い申し上げます。

建築同窓会
会報・名簿・IT委員会



建築同窓会 名城大

検索



建築学科教職員

教 授	環 境 計 画	岡 田 恭 明 ○	准 教 授	建 築 構 造	高 橋 広 人
〃	建 築 計 画	鈴 木 博 志	〃	建 築 計 画	谷 田 真 ○
〃	建 築 計 画	高 井 宏 之	〃	建 築 材 料	平 岩 隆
〃	建 築 材 料	寺 西 浩 司	〃	歴 史 意 匠	三 浦 彩 子 ○
〃	建 築 構 造	武 藤 厚	〃	環 境 計 画	吉 永 美 香
〃	環 境 計 画	石 井 仁	〃	建 築 構 造	松 田 和 浩
准 教 授	建 築 計 画	生 田 京 子	助 教	歴 史 意 匠	米 澤 貴 紀
〃	建 築 構 造	大 塚 貴 弘	〃	建 築 計 画	佐 藤 布 武

○印は名城大学卒業生

建築同窓会賞

建築同窓会は、学部卒業生及び大学院修了生の優秀者に建築同窓会賞を贈り表彰しています。受賞者は、各研究室が表彰候補者を選出し、学科より同窓会に推薦して決定しました。下記の受賞者には、学位記授与式にて建築同窓会会長より表彰状を授与します。

平成29年度同窓会賞候補者

福永 真也(生田研)	井上 大輔+川村 隼弥(高井研)	清水 貴博(三浦研)
安井 駿介(石井研)	榊原 悠斗(高橋研)	遠藤 靖弥+中山 博裕希(武藤研)
坂井 亮太(大塚研)	内田 慎(谷田研)	石部 博和+船木 勇希(村田研)
市川 友己(岡田研)	宮本 真樹(寺西研)	加藤 奈都美(米澤研)

就職・進路の動向

高井 宏之（前 就職・進路支援委員）

1.はじめに

本年度の建築及び関連業界の求人状況は、旺盛な建設需要を背景に大変良好でした。また、現在進行中の新4年生・M2分についても引き続き良好であり、多くの企業の方が求人に来られます。しかし、わが国の経済基盤は基本的に脆弱であり、依然として求人は楽観できる状況にはありません。

一方、就職活動スケジュールは「3月情報解禁、6月選考開始」が3年目となり定着しました。しかし、求人活動と紙一重の数日程度のインターンシップも一般化。就職情報サイトにはインターンシップ生の募集ページまで登場しました。優秀な人材を確保したいという企業とビジネスセンスに長ける就職産業の思惑が交錯する状況は、今も昔も変わりません。

2.就職先の状況

数年来の就職先の状況は、総合建設業が30%、住宅産業が20%、設計事務所と官公庁は7%、建材メーカーなどが5%と推移してきました。これに対し平成29年度卒業生の就職先は、総合建設業と住宅産業の逆転、リフォーム産業の増加など、これまでとは異なった傾向が見られました。ただ、住宅産業にはいわゆるハウスメーカー以外に、注文戸建住宅にシフトしてきた建設業、設計事務所機能を強化した工務店も含まれ、業態の幅はかなり広がっています。

また学生についても、多くは入学当初は建築デザイン分野を希望していますが、設計事務所や総合建設業の設計部での求人は少ないこと、および労働時間や待遇面を勘案し、住宅産業に流れる学生は少なくありません。一方、企業側においては労働時間など、働き方についての対応が大きく変化しつつあり、徐々に風向きは変わってきています。

なお、大学院進学は14%で私立理系の全国平均約40%を大きく下回っています。全国的な大学院の進学率は30年前に比べ3倍となっており、また当学科学生は学力面や建築的実力的で同レベルの他大学に全く遜色はなく、この進学率向上が喫緊の課題と考えています。この認識のもと、平成29年度より大学院の魅力強化を目的に、より実践的／専門分野横断的な科目を強化する新カリキュラムをスタートしました。

3.就職活動と就職支援

キャリアセンターでは3年やM1を対象に「ガイダンス」「模擬試験」「各種セミナー」等多くの就職支援を行っています。特に平成29年度は、2月に「仕事研究Week」と銘打ち、学部全体で100社を招いて業界紹介を行ってもらったなどの新しい取り組みを行いました。

4.就職活動への心構え

近年就活に臨む学生の志向を表す言葉として「新3K」があります。勤務地・給与・休暇だそうです。やりがいはどこに行ったのかとの素朴な疑問を持ちます。総じて建築は好きでなければやっていけない分野であり、とことんのめり込まないと喜びや達成感を得ることはできない奥の深さがあります。自分自身の強い意志のもと、高い目標や志を持ち、充実した人生を歩んだなあ実感できるような仕事選び、そして就職後の不断の努力をしてほしいと願っています。

なお昨年12月から、寺西浩司先生に就職・進路支援委員をノットタッチしました。引き続き、何卒よろしくご支援をお願い申し上げます。

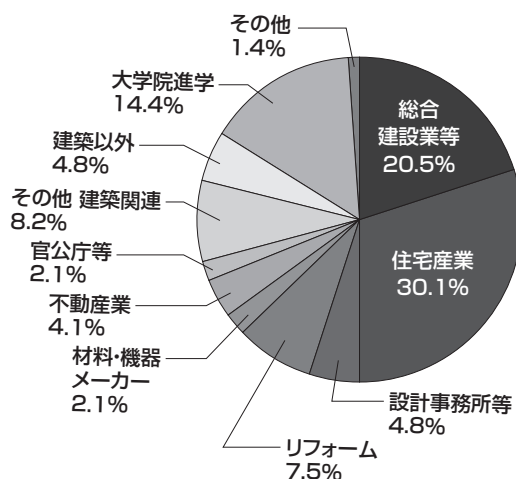


図1 平成29年度の卒業生(学部)の就職先(N=146)

平成28年度事業報告

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

① 総務委員会

1 総務委員会

1) 学内行事の学位記授与式には学生会員に対して援助を実施しました。

2) 会議の開催 通常総会 (6/12)

役員会開催 (計9回)

正副会長会 (2/26)

評議員会 (5/12)

3) 名城大学開学90周年記念事業への寄付を行ないました。

4) 建築同窓会活動への協力支援を実施いたしました。

5) 第22情報交流会 (平成28年11月19日開催) への支援をしました。

6) 学内各行事への参加並びに協力金支出等、支援をしました。

7/15 建築デザインI講習会

10/29 レクチャー&卒業設計中間講習会

11/18 勝矢武之氏特別講義「都市と建築、組織と個人」

12/8 佐々木睦朗氏特別講演・展示

3/1 仙田満氏特別講義「環境×デザイン×こどもの研究」

7) 慶弔に関する事務を執り行ないました。

② 財政委員会

平成28年10月 17日 会費振込依頼・交流会案内発送 平成27年度卒業生 147通

17日 会費振込依頼発送 4年生・保護者様 86通

17日 会費振込依頼発送 3年生・保護者様 87通

21日 会費振込依頼発送 2年生・保護者様 97通

21日 会費振込依頼発送 1年生・保護者様 113通

11月 4日 交流会案内発送 永年会員・会費納入会員 118通

7日 交流会案内発送 新規会費納入会員 11通

新規永年会員お礼状発送 3通

年会費納入のお礼状発送 156通

会費納入学生会員、卒業生全員にお礼状発送 103通

③ 事業・経済交流委員会

1) 第22回情報交流会を開催致しました。

平成28年11月19日(土) 名城大学天白キャンパスにて開催。

板坂 諭様による講演及び杉山 大祐様による津軽三味線のミニコンサートを行いました。

参加総数89名(会員41名+招待者28名+学生20名)

④ 会報・名簿・IT委員会

1) 建築同窓会会報(144号-A4版)を8,500部発行しました。(前号と同数)

2) 在学生会員に配布。会員6,133人(全員送付最終、前年は6,168人)に郵送。

3) 名簿の追加、訂正。

4) 新ホームページの立ち上げ、更新22件。

5) ホームページ協賛企業の募集。

⑤ 組織委員会

平成28年 8月22日(月) 第1回組織委員会(幹玄にて)

新役員顔合わせ会

平成28年10月18日(火) 第2回組織委員会(日本海庄や中日ビル南店にて)

H28情報交流会について内容連絡

平成28年11月12日(土) 第3回組織委員会

中国支部名城大学視察随行

(石川前会長・岡野会長・丸澤出席)

平成29年 1月28日(土) 第4回組織委員会(アイリス愛知)

電気会新春懇談会出席

(岡野会長・丸澤出席)

平成28年度決算報告

	項目	予算額	決算額	備考
収入の部	学生会員会費	1,000,000	720,000	学生会員会費(H27卒含む)72名
	事業収入	1,000,000	335,000	
	理工同窓会援助金及び学生会員援助金	360,000	288,800	情報交流会 年会費108名(うち新規12名)、H28永年会員会費3名
	建築同窓会年会費	1,200,000	594,000	
	HP協賛金	800,000	770,000	
	寄付金	100,000	39,000	
	利子及び雑収入	800	188	利子(元帳+各委員会)・他
	繰入金	500,000	1,146,514	
	合計	4,960,800	3,893,502	

	項目	予算額	予算内訳	決算額
総務委員会		540,000	会議費	110,000
			慶弔費	150,000
			学科支援費	150,000
			運営費	130,000
			合計	540,000
	財政委員会	230,000	郵送費	100,000
			印刷費	85,000
			運営費	45,000
			合計	230,000
	事業・経済交流委員会	1,020,000	見学等事業運営費	20,000
			経済交流運営費	1,000,000
支出の部	会報・名簿・IT委員会	2,400,000	合計	1,020,000
			会報印刷費	950,000
			会報郵送費	590,000
			名簿調査作成費	50,000
			HP制作・管理費	800,000
	組織委員会	230,000	運営費	10,000
			合計	2,400,000
			支部援助・設立準備費	100,000
	開学90周年	500,000	旅費	80,000
			運営費	50,000
			合計	230,000
予備費	寄付金	500,000	寄付金	500,000
			合計	500,000
	合計	40,800	合計	40,800
			合計	0
合計	4,960,800		合計	4,960,800
			合計	3,893,502

財産の部	平成28年度期首財産(平成28年4月1日)前年度繰越金		
	周年事業積立金(H25～H27の繰越額)	1,600,000	3,486,192
	うち、収入への繰出金 500,000		
	活動準備金	1,886,192	
	平成28年度期末財産(平成29年3月31日)次年度繰越金		
	前年度繰越金	3,486,192	2,339,678
	収入への充当金(活動準備金から)	-1,146,514	
周年事業積立金(H25～H28の繰越額)	1,100,000		

平成28年度会計報告承諾

名城大学建築同窓会28年度(2016年)会計報告書を帳簿、領収書等により監査したところ適正であることを認めます。

2017年(平成29年4月21日)

監事 荒川 建昭

監事 安藤 洋

平成29年度事業計画

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

① 総務委員会

- 1) 学内行事の学位記授与式には学生会員に対して援助を実施。
- 2) 会議の開催
 - ・通常総会開催 平成29年6月11日(日) 午前9時30分～10時20分
天白キャンパス共通講義棟南館S504教室
 - ・役員会開催 7～8回を予定 総務委員会 1～2回開催
 - ・評議委員会開催 平成29年5月9日(火) 校友会館第1会議室 午後7時00分
 - ・正副会長会議 平成29年4月21日(金)ほか、2～3回開催
- 3) 学内各行事への参加と協力支援・協賛等で、同窓会と学内の連携強化を図る。
- 4) 第23回情報交流会への支援。
- 5) 慶弔に関する事務

② 財政委員会

- 1) 前年に引き続きガイダンスにて学生会員へ会費の納入をお願いする。
- 2) 同窓会として会費の納入と共に在校生にプライバシーポリシーによる学生の名簿も充実する取り組みをする。
- 3) 会員への年会費納入案内を発送する。
60歳以上の会員の方に永年会費ご案内並びに納入をお願いする。
- 4) 学生会員・保護者様へ会費納入案内を発送する。
- 5) 卒業生(27年度)へ会費納入案内を発送する。
- 6) 会費納入会員へ礼状ハガキを発送する。
- 7) 財政委員会を年2回程度、開催する。

③ 事業・経済交流委員会

- 1) 第23回情報交流会開催予定
平成29年12月2日(土) KKR名古屋にて開催予定。

④ 会報・名簿・IT委員会

- 1) 建築同窓会会報(145号～A4版)を2,000部発行。
- 2) 在学生会員に配布。郵送希望会員、会費納入者(約660名)に郵送。
- 3) 名簿の追加、訂正。
- 4) ホームページの更新。

⑤ 組織委員会

- 平成29年 4月 第1回組織委員会
新役員の顔合わせ会
- 平成29年 6月 第2回組織委員会
理工・建築同窓会総会について内容報告
- 平成29年10月 第3回組織委員会
平成29情報交流会について内容連絡
- 平成30年 2月 第4回組織委員会
平成29年度活動報告及び平成30年度活動計画(案)について
- 平成30年 3月 第5回組織委員会
施設見学会開催予定

平成29年度予算

項目	予算額	備考
建築同窓会年会費	750,000	¥3,000×200名 永年会費¥30,000×5名
学生会員会費	1,000,000	学生会員会費 ¥10,000×100名
事業収入	700,000	情報交流会参加費等
理工同窓会援助金及び学生会員援助金	280,000	
寄付金	10,000	
利子及び雑収入	1,000	
合計	2,741,000	

項目	予算額	予算内訳
総務委員会	540,000	会議費 120,000 慶弔費 40,000 学科支援費 300,000 運営費 80,000 合計 540,000
財政委員会	210,000	郵送費 100,000 印刷費 50,000 運営費 60,000 合計 210,000
事業・経済交流委員会	720,000	見学等事業運営費 20,000 経済交流運営費 700,000 合計 720,000
会報・名簿・IT委員会	840,000	会報印刷費 350,000 会報郵送費 290,000 名簿調査作成費 50,000 HP管理費 140,000 運営費 10,000 合計 840,000
組織委員会	200,000	支部援助・設立準備費 80,000 旅費 70,000 運営費 50,000 合計 200,000
予備費	231,000	合計 231,000
合計	2,741,000	2,741,000

平成29年度期首財産(平成29年4月1日)前年度繰越金			
財産の部	周年事業積立金(H25～H28)	1,100,000	2,339,678
	周年事業積立金(H29)	100,000	
	活動準備金	1,139,678	

平成30年 建築同窓会総会のご案内

平成29年度の建築同窓会の総会を下記により開催いたします。多くの同窓生のご参加をお待ちしております。

●とき 平成 30年 6月 10日(日)

●ところ 名城大学 天白キャンパス内

9:30～建築同窓会総会 共通講義棟南館S504

10:30～記念講演会 共通講義棟北館 名城ホール

11:55～理工同窓会総会 共通講義棟南館 S201

13:00～懇親会 タワー75 15階レセプションホール

詳細につきましては、下記の理工同窓会ホームページにおいてもごらんになれます。

理工ホームページmeijyo-rikou-dousoukai.jp/

第24回 情報交流会開催(予定)のご案内

第24回情報交流会を開催(予定)いたします。多くの同窓生のご参加をお待ちしております。

●とき 平成 30年 11月 17日(土)

●ところ 名城大学天白キャンパス タワー75 他

第23回情報交流会も平成29年12月2日に盛大に開催することができました。会員各位のご協力に感謝いたします。第24回は上記の日程で予定しております。詳しくはHPにてご案内します。

名城大学建築同窓会 経済交流委員会

名城大学建築同窓会会則

第1章 総 則

- (名称)
第1条 本会は名城大学建築同窓会と称する。
- (事務所)
第2条 本会の事務所は名城大学理工学部建築学科内に置く。
- (支部)
第3条 1. 本会は役員会の承認を得て原則として地域単位とする支部を設置することができる。
2. 支部細則は必要に応じ役員会の議決を経て設けることができる。
- (目的)
第4条 本会は会員相互の親睦を図ると共に地域社会への貢献、文化の振興を図り名城大学及び名城大学建築学科の隆盛発展に寄与することを目的とする。
- (事業)
第5条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 会員名簿の整備
2. 会報の発行及びホームページに会報の情報掲載
3. 懇親会、見学会、講演会及び研究会等の開催。
4. 学生会員に対する援助
5. その他本会の目的を達成するために必要な事業。

第2章 会 員

- (組織)
第6条 本会は会員、特別会員、名誉会員を以て組織する。
- (会員の資格)
第7条 本会会員となる資格は次の各項の定めるところによる。
1. 会 員 (1) 名古屋専門学校応用物理建築分科卒業生。
(2) 名城大学理工学部建設工学科建築分科卒業生。
(3) 名城大学理工学部建築学科卒業生。
(4) 名城大学大学院工学研究科建築学専攻修了生。
(5) 名城大学大学院理工学研究科建築学専攻修了生。
(6) 前(1)～(5)項に籍を置く者で役員会で承認した者は会員に準ずる。
2. 名誉会員 本会に功勞のあるもので総会の承認するもの。
3. 学生会員 前1項の(3)、(4)在籍者。
4. 特別会員 名城大学理工学部建築学科の教職員。
5. 賛助会員 個人または団体で本会の事業を賛助するもので評議員会の承認を得たもの。
- (会費)
第8条 1. 年会費は3,000円とする。納入した会費は返却しない。
2. 60才以上の会員が永年会費30,000円を納入した場合は、以降の年会費を免除する。
3. 学生会員は、卒業後5年迄の会費10,000円を納入する。

第3章 総 会

- (総会の召集)
第9条 1. 通常総会は毎年1回事業年度終了後3ヵ月以内に会長が召集する。
2. 臨時総会は評議員会または役員会で必要と認めたとき会長が召集する。
- (総会の通知)
第10条 総会の召集はその2週間前までに日時・場所を示した文書、又は校友会会報をもって会員及び名誉会員に通知しなければならない。
- (総会の議決事項)
第11条 総会では次の事項を議決する。
1. 事業報告、収支予算ならびに財産目録の承認に関する事項。
2. 事業計画及び予算に関する事項。
3. 重要な財産の取得、処分に関する事項。
4. 評議員会、役員会で必要と認めた事項。
5. 評議員会における選出役員を承認する事項。
- (総会の議決)
第12条 1. 総会の議事は出席会員の過半数の同意で成立する。
2. 議事の議決同意が可否同数の時は議長が決める。
3. 総会の議長は出席会員の中から選任する。
- (議事録)
第13条 1. 議長は総会の議事について議事録を作らなければならない。
2. 議長は議事録署名人を出席会員の中から選任する。

第4章 役員及び会議

- (役員)
第14条 1. 本会には次の役員を置く。
(1) 名誉会長 1名 (7) 常任幹事 若干名
(2) 会 長 1名 (8) 委員長 専門委員会
(3) 副会長 6名以内 (9) 会 計 1名(補佐1名)
(4) 監 事 2名
(5) 支 部 長 各支部1名
(6) 学内幹事 若干名
2. 本会には相談役及び参与を置くことができる。
相談役は役員会に諮って会長が推薦する。
参与は本会の役員であった者の中から会長が推薦する。
相談役、参与は本会の諮問に応ずる。
- (役員の選出)
第15条 1. 会長、副会長、会計、監事は評議員会の推薦により選出する。
2. 名誉会長は建築学科長がこれにあたる。
3. 支部長は支部を構成する正会員の中から選出する。
4. 学内幹事は学内の会員及び特別会員の中から互選により選出する。
5. 常任幹事は会長の推薦により会員の中から選出する。
- (役員の職務)
第16条 1. 会長は本会を代表し会務を総理し評議員会役員会等の議長となる。
2. 副会長は会長を補佐し会長に事故ある時はその職務を代理する。
3. 支部長は支部を代表し支部の会務を掌理する。
4. 学内幹事は学科内の意見を集約し会との疎通を図る。
5. 常任幹事は会長の補佐として各事業を援助する。
6. 委員長は各専門委員会を代表し、委員会の会務を掌理する。
7. 会計は本会の会計事務を行う。

8. 監事は年1回以上本会の事業及び会計監査を行いその結果を総会に報告する。
- (役員の任期)
第17条 1. 役員の任期は2年とする。
2. 補欠による役員の任期は前任者の残任期間とする。
3. 役員は再任を妨げない。
4. 役員は任期中に退任しようとするときは評議員会の承認を必要とする。
- (役員会)
第18条 1. 役員会は本会の運営を円滑にするための執行機関である。
2. 役員会は名誉会長、会長、副会長、監事、各支部長、常任幹事、学内幹事、各委員長、会計、会計補佐によって構成する。尚 相談役、参与については会長が必要に応じ出席を求める。
3. 役員会は役員の過半数の出席をもって会議が成立し、出席者の過半数の同意がなければ議決することができない。尚出席出来ない時は委任状を議長宛に提出し、議決権行使することが出来る。
- (専門委員会)
第19条 1. 専門委員会は第4条の目的と第5条の事業を円滑に達成するために評議員及び会員の中から若干名を選出し、これを構成する。
2. 専門委員会は次による。
(1) 総務委員会 (5) 組織委員会
(2) 財政委員会 (6) その他必要となる委員会
(3) 事業・経済交流委員会
(4) 会報・名簿・IT委員会

第5章 評議員及び評議員会

- (評議員)
第20条 1. 本会は会員の卒業年度の代表として評議員を選出する。
2. 評議員は評議員の推薦による。又は各期会員の中から選出する。
- (評議員の任期)
第21条 1. 評議員の任期は2年とし、再任を妨げない。
2. 評議員が欠けた場合の補充評議員の任期は前任者の残任期間とする。
- (評議員会)
第22条 1. 評議員会は役員及び各期評議員で構成し会長が必要と認めた場合に会長がこれを招集する。
- (評議員会の開催)
第23条 1. 評議員会は定例評議員会と臨時評議員会とする。
2. 定例評議員会は、毎年総会の1箇月前とする。
3. 臨時評議員会は役員会で必要と認めたとき、または評議員の3分の1以上の要請があったときに開催する。
4. 評議員会の招集は議案を付して10日前までに通知しなければならない。
- (評議員の議決)
第24条 1. 評議員会における議事の議決は総会に準ずる。
- (評議員の審議事項)
第25条 1. 評議員会の審議事項は、次の各号に定めるところによる。
2. 総会の付議事項に関すること。
3. 役員選出に関すること。
4. その他必要と認める重要事項。

第6章 資産及び会計

- (基本資産)
第26条 基本資産は会費、寄付金及び助成金でこれを構成する。
- (経費の支弁)
第27条 本会の経費は基本資産ならびに事業から生ずる収入でこれを支弁する。(事業年度)
第28条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。(特別会計)
第29条 本会に特別会計を設けることができる。

第7章 雑 則

- 第30条 本会則は総会の議決によって変更することができる。
第31条 本会は会務運営及び第5条の事業遂行のために必要な委員会及び部会を設けることができる。

附 則

- (1) 本会則は、昭和38年9月22日より施行する。
(2) 昭和45年 9月14日会則一部改正及び訂正施行する。
(3) 昭和51年 8月 7日会則一部改正施行する。
(4) 昭和57年 9月12日会則一部改正及び訂正施行する。
(5) 昭和60年 9月 8日会則一部改正及び訂正施行する。
(6) 平成元年 9月17日会則一部改正及び訂正施行する。
(7) 平成 5年 9月18日会則一部改正及び訂正施行する。
(8) 平成 6年 9月25日会則一部改正及び訂正施行する。
(9) 平成 7年 9月24日会則一部改正施行する。
(10) 平成 8年 9月21日会則一部改正及び訂正施行する。
(11) 平成10年 9月20日会則一部改正及び訂正施行する。
(12) 平成12年10月 1日会則一部改正及び訂正施行する。
(13) 平成13年 9月30日会則一部改正及び訂正施行する。
(14) 平成18年 9月10日会則一部改正及び訂正施行する。
(15) 平成19年 9月30日会則一部改正及び訂正施行する。
(16) 平成20年 9月28日会則一部改正及び訂正施行する。
(17) 平成23年 6月19日会則一部改正及び訂正施行する。
(18) 平成28年 6月12日会則一部改正及び訂正施行する。

表紙・ 裏表紙解説

表紙：近代建築掲載作品（山本 帆南）

岐阜県可児郡御嵩町、この町では昭和40年ごろまで亜炭（石炭に準ずる燃料）採掘が行われていた。この地域では、亜炭層のある部分を残す「残柱方式」を用いて採掘されたため、町全体の地下にはグリッド状の空洞が面状に広がる。

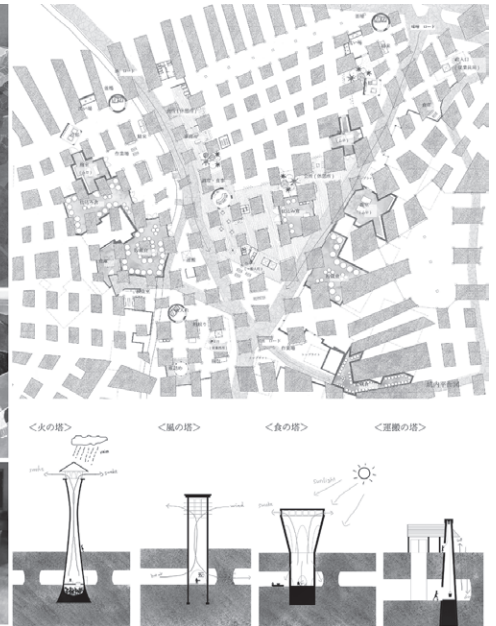
残柱の老朽化や風化による影響で、年に数件、陥没・落盤の被害が起こっている。

この負の遺産として残された空洞を、町を活性化させ、歴史を伝えるものに変えられな
いだろうか。

そこで、湿度・気温が一定の坑内に「酒・味噌・甘酒」を製造する醸造所を提案する。発酵



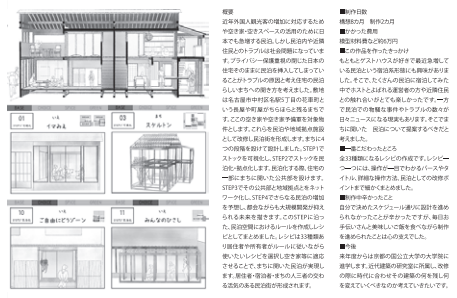
町に映る産業の塔
～亜炭鉱跡における醸造所の提案～



のもととなる麹菌は、湿度・温度が一定の環境で育つのに適しており、湿度を保つことで、乾燥による風化でもろくなる残柱を保護することができる。

醸造所を地下に挿入することで、町の新たな産業となり、地盤を支える役割も担うことができる。

また、地下で行っている作業工程を地上でも認識できるように各機能に合わせた4種類の塔を建てる。塔は町のランドマークとなり、塔が増えるにつれて産業の広がりが可視化されていく。



裏表紙：日本建築学会巡回作品（竹中 智美）



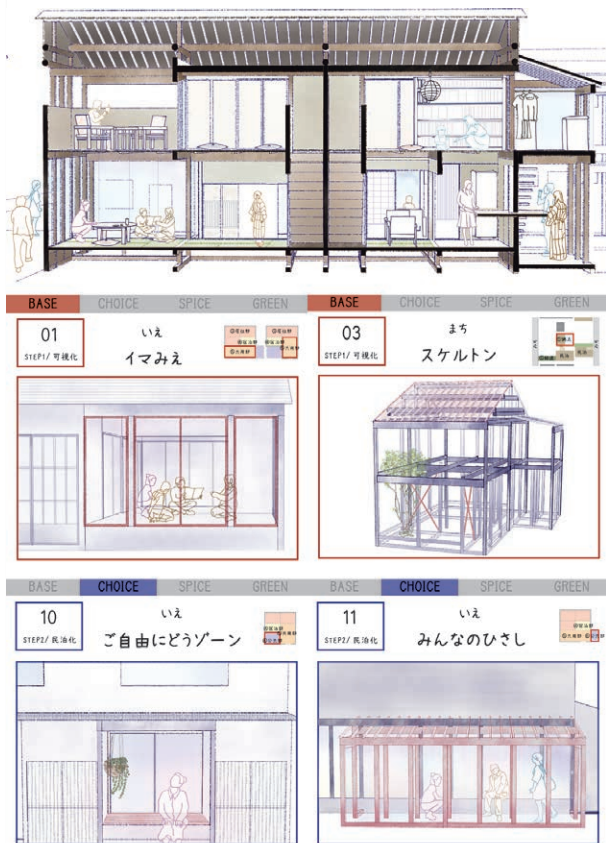
裏表紙：愛知建築士会提出作品（長谷川 渥一郎）

※題字 故 中田 武教授

平成29年度役員

名 譽 会 長	寺西 浩司 (建築学科長)	参 与	鈴木 寛 (昭和34卒)	総務副委員長	鈴木 賢三 (昭和55卒)	
会 長	岡野 廣海 (昭和50卒)		総務委員長	大橋 裕一 (昭和56卒)	財政副委員長	稲垣 友彦 (平成8卒)
副 会 長	河合 秀一 (昭和48卒)		財政委員長	駒 秀 夫 (昭和45卒)	事業・経済副委員長	伊藤 正樹 (平成14卒)
副 会 長	磯野 信秀 (昭和47卒)		事業・経済委員長	荒木 衛 (昭和58卒)	会報・名簿・IT副委員長	深谷 光秀 (昭和53卒)
副 会 長	鈴木 千春 (昭和54卒)		会報・名簿・IT委員長	三宅 賢二 (平成4卒)	組織副委員長	佐藤 勝巳 (昭和59卒)
副 会 長	安井 真 (昭和48卒)		組織委員長 (兼務)	丸澤 良彦 (昭和52卒)	会 計 補 佐	伊藤 茂 (昭和63卒)
副 会 長	丸澤 良彦 (昭和52卒)	会 計	山中 弘 (昭和53卒)	常任幹事兼相談役	石川 豊 (昭和47卒)	
監 事	安藤 洋 (昭和41卒)	学内幹事	三浦 彩子 (平成8卒)	岐阜支部長	水谷 武 (昭和34卒)	
監 事	荒川 建昭 (昭和41卒)	常任幹事	下地 康夫 (昭和47卒)	名古屋支部長	大井 俊明 (昭和47卒)	
相 談 役	加藤 哲也 (昭和38卒)	常任幹事	杉村 竹次 (昭和48卒)	尾張東支部長	駒 秀 夫 (昭和45卒)	
相 談 役	廣瀬 敏郎 (昭和44卒)	常任幹事	佐々木 次明 (昭和53卒)	尾張南支部長	松本 実 (平成4卒)	
相 談 役	岩崎 征一 (昭和41卒)	常任幹事	谷田 真 (平成7卒)	西三河支部長	深谷 光秀 (昭和53卒)	
相 談 役	小木曾 森司 (昭和48卒)	常任幹事	鈴木 善徳 (昭和43卒)	東三河支部長	山本 利州 (昭和37卒)	
参 与	秦 和 久 (昭和30卒)	愛城会幹事	鈴木 達也 (平成3卒)			
参 与	坂崎 日支夫 (昭和35卒)	城友会会長	赤尾 浩治 (昭和57卒)			

2017年度 名城大学建築学科卒業制作活動記録 (日本建築学会巡回作品、愛知建築士会提出作品)



概要

近年外国人観光客の増加に対応するためや空き家・空きスペースの活用のために日本でも急増する民泊。しかし民泊内や近隣住民とのトラブルは社会問題になっています。プライバシー保護重視の閉じた日本の住宅そのままに民泊を挿入してしまっていることがトラブルの原因と考え住宅の民泊らしいまちへの開き方を考えました。敷地は名古屋市中村区名駅5丁目の花車町という長屋や町屋がちらほらと残るまちです。ここの空き家や空き家予備軍を対象物件とします。これらを民泊や地域拠点施設として改修し民泊街を形成します。まちに4つの段階を設けて設計しました。STEP1でストックを可視化し、STEP2でストックを民泊化・拠点化します。民泊化する場合、住宅の一部にまちに開いた公共部を設けます。STEP3でその公共部と地域拠点とをネットワーク化し、STEP4でさらなる民泊の増加を予想し、都会ながらも大規模開発が抑えられる未来を描きます。このSTEPに沿った、民泊空間におけるルールを作成しレシピとしてまとめました。レシピは33種類あり居住者や所有者がルールに従いながら使いたいレシピを選択し空き家等に適応させることで、まちに開いた民泊が実現します。居住者・宿泊者・まちの人三者の交わる活気のある民泊街が形成されます。

■制作日数

構想8カ月 制作2カ月

■かかった費用

模型材料費など約6万円

■この作品を作ったきっかけ

もともとゲストハウスが好きで最近急増している民泊という宿泊系形態にも興味がありました。そこで、たくさんの民泊に宿泊してみた中でホストとよばれる運営者の方や近隣住民との触れ合いがとても楽しかったです。一方で民泊での物騒な事件やトラブルの数々が日々ニュースになる現実もあります。そこでまちに開いた 民泊について提案するべきだと考えました。

■一番こだわったところ

全33種類になるレシピの作成です。レシピ一つ一つには、操作が一目でわかるパースやタイトル、詳細な操作方法、民泊としての改修ポイントまで細かくまとめました。

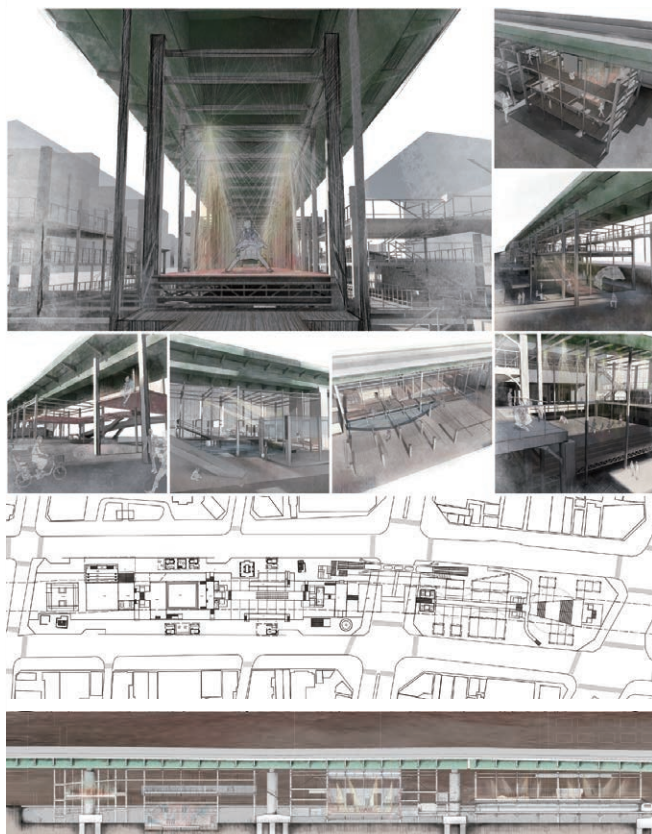
■制作中辛かったこと

自分で決めたスケジュール通りに設計を進められなかったことが辛かったですが、毎日お手伝いさんと美味しいご飯を食べながら制作を進められたことは心の支えでした。

■今後

来年度からは京都の国立大学の大学院に進学します。近代建築の研究室に所属し、改修の際に時代に合わせその建築の何を残し何を变えていくべきなのを考えていきたいです。

優秀賞(日本建築学会巡回作品) 竹中 智美 みんなくレシピ:まちにひらいた民泊空間による地域ストックの再生



概要

都市に、多種に渡る人々が多様な活動をし、独特の世界観を放つ高架下空間が存在する。若者からお年寄りまで老若男女が生活し、都市の補助広場の位置づけにある。共に100m道路と呼ばれ中央分離帯に大きな広場を有する久屋大通公園とは対称的な点として高架の屋根の存在が大きい。その巨大な構造物はその下の空間に大きく影響する。柱脚間隔での機能の点在と平面的な広場形成、高架の屋根が作る影による暗さや治安の悪さ、活動の飽和状態による排他的印象を問題視する。その高架下空間は名古屋市中区若宮大通上空を走る名古屋高速道路の下に位置する、若宮大通高架下である。栄地区と大須地区を南北に分断する高速道路と高架下空間。周辺には栄商業施設や大須商店街、白川公園など都市形成の要となる場所がある。久屋大通と大津通に面し、街を行き交う歩行動線の結節点に位置するため、敷地周辺には多くの人の流動的動きが見られる。現状、西からフットサルコート、多目的広場、池を介した遊歩道となっていて地下階には二階建て駐車場を有する。高架下に劇場舞台を挿入する。街を行き交う一般歩行者が気軽に高架下空間に介入し、その使用人との間に視線の交錯を生む。そこで活動する本来見られることを目的としない創作発信活動が人の目に触れることで見世物となりそこに劇場の賑わいが生まれる。箱型ホールで行われる高貴な演出演目ではない、発展途上なゲリラ的創作発信活動が街を豊かにし活力を与え、財産となる。街を歩く中でこの高架下に気軽に訪れ、演者となった高架下使用人たちの活動を目にし、新たな非日常体験が生まれる劇場舞台群。アングラな高架下を使用する多様な演者たちが高架特性の再解釈と共に街に発信される、高架座賛歌。

優秀賞(愛知建築士会提出作品) 長谷川 滉一郎 高架座賛歌